

龍の涙

おか　てるあき

信ちゃんは泣き虫です。今日もカレーの人参を残してお母さんに叱られました。お母さんはいろいろと工夫してくれるのですが、口に入れると分かるのです。学校でも大変です。給食に人参が出るとお皿の横に一つ一つ並べます。担任の山田先生も困った顔を一回だけして「頑張ったね。もういいよ」と許してくれますが、心の中では「ごめんなさい」といつも謝っています。

ある日のこと、お母さんがテーブルの上に青いコップを置きました。中を覗くと何やらお茶のようなものが入っています。

「信ちゃん、これ飲んでみて」「これはね、烏龍茶って言ってね、これを飲むと龍のように強くなれるらしいわよ」と言いました。「烏龍茶？」名前だけは聞いたことがあります。信ちゃんの家は夏といえは麦茶です。取り出したお茶の葉は、鳥のように黒く、竜のように曲がっていました。

その夜、信ちゃんは夢を見ました。夏の公

園で誰かが泣いているのです。信ちゃんの泣き声に似ていました。信ちゃんは、「どうしたの」と近づいて尋ねました。男の子は「僕には苦手なものがある」と言うのです。人の優しさが苦手と言うのです。人に優しくしてもらうと、涙が出てきて元気がなくなると言うのです。信ちゃんは信じられませんでした。お母さんから人には優しくしなさいと言われていたからです。「優しいことはいいことだよ」と信ちゃんは教えてあげました。そして手に持っていた水筒から烏龍茶を一口飲ませてあげました。するとどうでしょう。その子の右目から一粒の涙がこぼれたのです。その涙は信ちゃんの手の中に落ちたかと思うと、きらりと光るガラス玉になりました。まるでお母さんのネックレスのようでした。「少しは元気になったかい」と優しく言いました。すると今度は左の目からまた涙が落ちて小さなガラス玉になりました。

信ちゃんは、「誰にも苦手なもの一つは

あるから大丈夫。僕なんか人参が苦手です」と慰めました。すると男の子は、「何だ。そんなことか」と笑い出しました。「じゃ、さっきのお茶のお礼に、僕が君に人参を食べられるようにしてあげる」と言い出しました。

暫くすると風が吹き始め、男の子は空に舞い上がり龍に変わったかと思うと、信ちゃんの周りを七回りしました。そして虹を潜って山の向こうに飛んで行きました。

そこで目が覚めました。不思議なことに枕の横にガラス玉が二つあるではありませんか。(夢じゃなかったの?)暫く考え込んでいた信ちゃんは、何を思ったのか朝ごはんを作っている母さんの元に駆け寄りしました。

「僕、龍を見たよ。今日から人参食べれそうな気がする」

お母さんは少し驚いたようでしたが、にっこり笑って信ちゃんを抱きしめました。

「良かったね信ちゃん」と、誰かが耳元で囁いたような気がしました。